

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：平成30年7月15日(日)
(2018年)

地域企業紹介 その 56

株式会社石井

創業100年に向かって 縫製加工で「モノを運ぶ」お手伝い

帆布製品製造業を営む株式会社石井の石井隆匡社長を厚木市戸田の本社工場に訪ねました。同社は、1949年10月に各種テント製造会社として厚木市寿町にて創業し、1957年4月には有限会社石井を設立、今年で創業69年目、法人設立62年目を迎える老舗企業の一社だ。

同社は元々「テント屋」と呼ばれる縫製加工メーカーで、主に重布と呼ばれる帆布、テント素材を使用し、商店・店舗向け雨除けテント・看板をはじめ、トラック用の幌シート、雨除けシート、学校のプールサイドテントや運動会のテントなど幅広く手掛けてきた。そのような中、テント業界は後継者不足による廃業や製品ニーズの低下、安価な海外製品の流通により市場は縮小傾向にあったため、新たな市場開拓として、1990年代頃から物流業界の進展を視野に入れトラック市場に参入してきた。

現在、同社は国内物流向け物流用縫製部品、補助ツールの製作として、冷気を外に逃がさないようにするための「保冷カーテン」や荷室内を2温度(冷凍と常温)に仕切る「ソフト間仕切り」など冷凍・冷蔵トラック向けエコ関連製品を主力製品としている。

その他、「この装置のカバーを作りたい」「新しいサービスを始めるので、とっかかりのツール(袋・カバーなど)を小ロットで作りたい」というようなスポット的なニーズにも素早い提案と試作品の提供により顧客ニーズを充足させている。特に見積もりや試作提案の殆どは発注者と会うことなく電話・FAX・メールで行い、試作品を動画にしてYouTubeで流して商談することから、遠方顧客からの依頼でもスピーディで訴求力のある対応が実現されている。少量多品種にてニッチなニーズに対応し、製品の約90%は都度設計のフル/セミオーダー品であり、顧客ニーズにマッチした満足度の高い製品供給を実現。本社工場のある厚木を起点にボディーメーカー、修理工場向けに全国へ出荷、受注から出荷までどこよりも迅速に納品できることなどが「株式会社石井」の特徴であり強みだ。現在、ボディーメーカーをはじめ、架装メーカー、トラック用商社を直接顧客に持ち、エンドユーザーは全国に2000社以上に及んでいる。

株式会社石井
代表取締役 石井 隆匡 (いしい たかまさ)
所在地：厚木市戸田 2468-12
従業員数：21名
資本金：1000万円
事業内容：帆布製品製造・販売
URL: <http://www.canvas-ishii.com/index.html>

石井隆匡社長は厚木市出身。中学時代はサッカー少年でゴールキーパーとして活躍。高校は、弓道をしていた塾の先生に憧れて弓道部のある厚木東高校へ進学。その後、エレキギターを作るため音楽専門学校の音楽技術科へ進むことも考えたそうだが、東海大学ロボット工学科へ進学された。元来、モノづくりが好きで、モノづくりにチャレンジする気性は父親譲りだそうだ。プライベート作品にはキーケースなどの革製品をはじめ家具や自動車のエアロパーツ（カーボン製）まで多種多様だ。モノづくりの面白さは、自分だけのオリジナルであり、作り上げたときの達成感と出来上がりを褒めてもらったときの喜びにあると石井社長は語る。

そんな石井社長が、同社の四代目社長として経営を引き継いだのは2014年7月で入社13年目34歳の時。理工系出身の経験を活かし、社長自ら設計しプログラミングした受注・生産・納品などの管理システムを構築。事務所や工場内の要所要所にパソコンを配置して、製品製造進捗状況から納期・品質の向上管理などに役立てている。この管理システムは、誰もが素早く簡単に使えるようにタッチパネル方式となっており、作業現場や事務処理の効率化が図れると共に取引先からの信頼獲得にも繋がっている。

モノづくりにおいて、顧客の要望に応え、信頼関係を構築することは勿論のこと、顧客の要望をさらに上回る独自性ある“提案力”が重要だと石井社長は言う。より良いアイデアを出すために

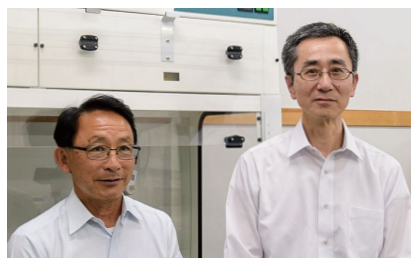
常に考える。時には顧客の要望を覆すような提案をすることもあつたのだとか。株式会社石井に脈々と受け継がれてきたアイデアマンとしてのオリジナリティースピリッツが、幾多の荒波を乗り越えて70年もの長きにわたり事業継続されてきた一番の要因ではないだろうか。

また、石井社長は人材育成にも熱心に取り組んでいる。同社従業員の平均年齢は35歳と若く、現在38歳である石井社長とほとんど変わらない。そんな中、社長就任2年目の2016年に、社長自ら経営に関する知識修得やスキル向上のため「SIC経営塾」を受講。経営方針の組み立て方などを学ぶことができ、自分の進むべき方向性を見出すことができた石井社長。また、中堅社員向け「SIC職場リーダー養成塾」や「SICカイゼンスクール」に若手社員を参加させている。ものづくりの主役は「人」、お客様の幸せを創るうえで、まさに「人を創り、モノを創る」という経営方針を着実に実践している。

そんな石井社長の座右の銘は「枠にはまらず 逸脱せず」だそう。現状維持で衰退しないよう、適度なアグレッシブさを発揮し、「縫製加工で“モノを運ぶ”お手伝い」を通じて、創業100年を目指している。心に秘めた“パッション(情熱)”を感じる石井社長の日々奮闘努力に心からエールを贈りたい。

「医薬品を通してより多くの人の幸せに貢献する」

ノーベルファーマ株式会社 CMC研究室



希少疾病用医薬品や医療機器の開発を手掛けるノーベルファーマ株式会社生産本部の安澤亨さんと野村達雄さんにお話を伺いました。

希少疾病用医薬品や医療機器の開発を手掛けるノーベルファーマ社で、国立成育医療研究センターと共同での小児用医薬品の研究開発にあたられていたお二人は、新たな開発業務を担当、SICを研究の場とされています。大手が手掛けることのない分野でいち早く新薬を上市させるために、ラボでは主に、薬剤の処方や製造法の基礎検討、成分の純度や化学的な安定性などを確認するための分析業務を行っています。

ノーベルファーマ社は銅吸収阻害剤(難病指定されているウィルソン病の治療剤)として“ノベルジン”を販売していますが、これに味覚障害などを惹き起こす“亜鉛欠乏”の治療薬としてわが国で初めて“低亜鉛血症”の適応を取得、効能追加(既存の薬に新たな効果・効果を見出し、医薬品として承認を取得すること)を果たしました。希少疾病の治療薬が別の形で患者さんの治療を助け、それを会社の収益の柱として育て上げ、また新たな希少疾病治療のための新薬・新製品を世の中に送り出すといった好循環構築への新たな挑戦がノーベルファーマ社で始まり、その一端を安澤さん、野村さんが担われています。

「医薬品開発において、携わった研究が製品化に至るのはほんの一握りですが、わが社は希少疾病の領域において一つでも多くの医薬品を製品化できるように、これからも様々なチャレンジを続けていきたい。」と安澤さん、「薬は最終的にちゃんと服用されな

いといけません。特に子どもや高齢者が服用しやすい薬の開発は大切な仕事なのです。これからも患者側に立った医薬品づくりを進めていきたい。」と野村さんは語ります。

着々と研究開発環境が整い、新しい薬を待ち望む方のための仕事がこのSICの中で始まっています。



ノーベルファーマ株式会社は一般的には利益を出しづらい“希少疾病薬”というハイリスクなカテゴリーの開発に果敢に挑戦し、社会貢献のために自ら経営資源を投下しながら企業としての今後の成長も大きく期待できることが評価され、Japan Venture Awards2017で最優秀賞にあたる経済産業大臣賞を受賞されています。

ノーベルファーマ株式会社 CMC研究室
SIC-1 202 号室
URL: <https://www.nobelpharma.co.jp/>

※CMC: Chemistry, Manufacturing and Control
の各頭文字を取った略語。



What is “Incubation”?

SICの特徴ある事業とその担当者の紹介を通じ、インキュベーションセンターとは何かをお伝えしています。今回は、「SICの新たな拠点の整備」についてご紹介します。

新たな拠点の整備

2000年4月のSIC-1オープンから18年。これまで延べ371社（個人事業含む）が入居し、うち274社が卒業し、新たな場所で操業しています。当初相模原市西橋本にSIC-1、2年後隣接地にSIC-2、2011年には相模原市上溝にSIC-3を建設し、多くの企業の入居需要に応えるため事業拡張してきました。さらに、

ここ5年間、SIC施設全体の年間入居率は90%を超えるようになり、産業集積の促進、企業支援の充実、地域社会発展への貢献のためSIC-2敷地内に地上6階延床面積2,700㎡の増築棟の建設を始めます。2019年8月のオープンを予定しています。

1. SIC-2増築棟

SIC-2増築棟は、人工知能、ロボット、IoTによる新しいビジネス、新産業の創出が予想される今日、ロボット、バイオ、ヘルスケア、エネルギー、環境分野などの成長産業分野企業による利用を想定し、ウェット系ラボ、機械系ラボの2タイプ計29室（一部屋63㎡）を整備します。使いやすさに重点をおいた仕様は、これまでの3施設の経験に基づき最も優れており、フロア最大5区画300㎡まで利用できる拡張性をもつなど十分な操業環境を提供します。

さらに、増築棟1階には相模原市ロボット導入支援センターが移転、再整備され、相模原市の進めるロボット産業施策の拠点となり、その効果が期待されています。

この増築によりSICは、全施設で、大きさ、仕様の異なる14タイプ153室を有するインキュベーションセンターとして、創業者から中小企業の皆様の期待に応えることができる施設として完成します。

2. コミュニケーションの充実

ロボット、バイオ、ヘルスケア、エネルギー、環境などの成長産業分野の研究開発型企業の新たな入居は、人、企業の新たな交流を生み出す機会として、新たに既存施設と増築棟を一体で捉えたゾーニングを計画しています。現在、人、企業のコミュニケーションをテーマに利用しやすい共有スペース、交流スペースについて入居企業の皆さんと検討を重ねており、企業の皆さんと共につくる理想的なコミュニケーションの場の提供が実現されます。



SIC-2 のロビーにある模型
左：SIC-2
右：増築棟

担当IMから

SIC設立準備段階から携わり、低廉でありながら機能性の高い施設の整備と前例のないインキュベーションセンターの管理、運営モデルの実現でした。限られた時間の中、明確な目標のもと、民間と行政が一つになり進めた事業は、ハード、ソフト事業の整備だけでなく、携わる人に熱い情熱と強い信念を生み出しました。

SIC増築棟は、19年間のハード事業の集大成の施設となります。初心を忘れず、築き上げたSICモデルを入居企業、地域企業の皆様とともに成長させていきたいと思ひます。



取締役 総務部長
稲垣 英孝

神奈川県座間市座間の出身。大学卒業後、相模原市に入庁。庁舎、パビリオンの施設管理業務とグリーンタワー相模原（市立麻溝公園）建設事業の経験から1998年産業振興課に配属されSIC建設を担当。その後、SICに入社し、企業支援、施設管理、総務を担当。現在は取締役総務部長としてSIC-2増築事業のリーダーを務める。

ビストロ フライデーソックス

BISTRO Friday Sox

今回は橋本駅北口から徒歩5分のところにある「ビストロフライデーソックス」を紹介します！

オーナーの小山さんは19歳の時に旭川でアイリッシュパブを始めたそうで、その後2013年に中央区田名のステーキの名店「Cherry's」を開業し、昨年「ビストロ フライデーソックス」が系列店としてオープンしました。精肉間屋も営んでおり、新鮮な牛肉・豚肉の仕入れが可能です。「ビストロフライデーソックス」は美味しい豚肉を食べてもらうことがコンセプトとなっています。おススメの料理はブランド豚のローストポークとレバカツで、どちらも豚の美味しさを引き出した逸品でした。合わせていただいた勝沼産ワインも最高でした。

来月からは各テーブルに七輪を導入し、焼肉もできるようになるとのことです。気さくな店長さんから美味しいお肉の食べ方も教えてもらえちゃうかも？

ブレない職人達が追求する、美味しいお肉が食べられるビストロ、ごちそうまでした。（大谷）

相模原市緑区橋本6-37-13 Tel. 042-703-0950

営業時間 11:30～15:00(L.O14:30) 17:00～24:00(L.O23:30) 定休日 月曜日・火曜日



オーナーの小山さん



加藤店長



ポテトサラダ
おすすめです
（柔い焼き豚が
トッピング
されてます）



その日に仕入れた
美味しいお肉の盛り合わせ

さがみはら子どもアントレプレナー 体験事業 — 協賛のお願い —

子どもたちへ そして 未来へ

「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業(通称:子どもアントレ)」は、小学5年生、6年生の子ども達が、初めて出会う仲間と「会社設立、事業計画書の作成、融資交渉、仕入れ、製造、販売、決算」という会社経営のプロセスを疑似体験するものです。

子どもアントレは、次代を担う人材の育成を目指して、2001年にスタートし今年で18年目を迎えました。5年前から子ども達を支える「SICアントレ・インターンシップ」の大学生の中には、「子どもアントレ」を経験した大学生が教える立場となって参加するようになりました。

また、当初定員32名の子どもたちから始まった子どもアントレは、6年目からは定員48名となり、今年は更に60名と、より多くの方にご参加いただけるようになりました。



本事業は、毎年、子ども達の負担を軽減するため

に、事業趣旨にご賛同いただいた相模原市や市内企業経営者などからのご協力とご協賛により運営されています。大きな夢を持ち無限の可能性にあふれた子ども達の育成に、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

協賛金：1口1万円（詳しくはSICホームページをご覧ください。）

後援：相模原市、相模原市教育委員会、
相模原商工会議所、(公財)相模原市産業振興財団

お問い合わせ先：さがみはら子どもアントレプレナー
体験事業実行委員会 事務局 担当：上野



子どもたちが 心を込めて作った商品を 販売します！

2018 年
8月26日(日)
10:30~12:00 (予定) ※売り切れ次第終了



ご来場をお待ちしています!!

2018.7 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

8月24日(金)～26日(日)	子どもアントレ2018
8月28日(火)	第40回南西フォーラム
9月4日(火)	生産性向上のためのIEセミナー(仮)
9月8日(土)～12月8日(土)	2018年SICカイゼン・スクール開催
10月2日(火)	産業用ロボットビジネスフォーラム(仮)

入居企業を募集してます。
SIC空室情報 (平成30年7月15日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1	○スモールオフィスA (23.6㎡)	2 78,700円
	△スモールオフィスB (17.3㎡)	1 64,200円
	△セミラボB (31.5㎡)	1 98,400円
SIC-2	空室はありません	- -
SIC-3	空室はありません	- -

販売場所

相模大野駅北口 ペDESTリアンデッキ
(相模大野駅徒歩1分)

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

編集後記

西日本豪雨(平成30年7月豪雨)により被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。昨年も同じ頃、九州北部での記録的な豪雨がありました。この時期、毎年のように日本のどこかで豪雨による災害が起きています。被災地から遠くとも故郷へ安否の連絡を取られる方も多いのではないのでしょうか。皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。次号かわらばんNo.57は、9月を予定しています。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>